

令和7年度きのくにコミュニティ・スクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和7年10月7日（火）13:30～15:30

実施形態：オンライン 参加者：62名

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～理想的な学校運営協議会との関わり方・委員の選び方～」

講演「地域社会との協働的な学び・探究的な学びの実践について」

文部科学省CSマイスター

山梨県立笛吹高等学校 校長 廣瀬 志保 氏

- コミュニティ・スクール（学校運営協議会を設置した学校）とは
 - ・学校運営協議会の意義
- 法律に基づくコミュニティ・スクールについて
 - ・学校運営協議会の主な機能・権限
- コミュニティ・スクールの導入状況（令和6年5月1日時点）
- 政府重要文書におけるコミュニティ・スクール及び地域学校協働活動関係の記載
 - ・経済財政運営と改革の基本方針2025
 - ・地方創生2.0基本構想
 - ・新しい資本主義のグランドデザインおよび実行計画2025
- 地方創生2.0の「基本的な考え方」概要
 - ・地方創生2.0起動の必要性
- 公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の一部を改正する法律の概要
 - ・学校における働き方改革の一層の推進
 - ・学校教育法第42条関係
- 学校運営協議会、3年間の実践
 - ・山梨県立笛吹高等学校 特色ある4学科とスクールミッション
 - ・保護者による中学校の保護者対象説明会（保護者）
 - ・教科横断STEAM型の「笛吹グローバル（FFG）」
 - ・FFGⅠ ミニ探究・課題発見ワークショップ・グループ探究
 - ・FFGⅡ 社会の未来を協創しよう
 - ・FFGⅢ 世界の未来を協創しよう
 - ・生徒の興味関心に応じて探究テーマを選択
 - ・笛吹GP（グラデュエーションポリシー）
 - ・笛吹高等学校 学校運営協議会必携の作成
 - ・【課題1】小中学校との連携
 - ・【課題2】評価検証チーム→評価項目の検討
 - ・【課題3】広報チーム→生徒の活動を全国に発信しよう
 - ・チームでの熟議と実践
 - ・地域の捉え方

令和7年度きのくにコミュニティ・スクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和7年10月7日（火）13:30～15:30
実施形態：オンライン

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～理想的な学校運営協議会との関わり方・委員の選び方～」

発表者：和歌山県立箕島高等学校 校長 藤村 温 氏

「箕島CS活動報告 ～ワイガヤ熟議を目指して～」

○評議員会から運営協議会への移行について

○熟議とは

- ・小中学校と高校との差

○高校にとっての地域とは

- ・和歌山工業高校の場合・・・テーマ型CS
- ・桐蔭高校の場合・・・・・・隣接県立高校との距離感と求められる姿
- ・箕島高校の場合・・・・・・小学校のCS活動に近づけられる立ち位置

○委員の選出と活動内容

- ・令和5年度（箕島1年目）・・・・CS(意見交換)
- ・令和6年度（箕島2年目）・・・・CS(意見交換 グループ協議)
- ・令和7年度（箕島3年目）・・・・CS(グループ分けせずざっくばらんな意見交換)
(休憩時間のような望ましい雰囲気を目指して)

○今後の方向性

- ・部活動の活性化・・・・地元中学校との部活動指導連携（文・武）
- ・地域貢献活動・・・・探究活動、市との連携、企業との連携
- ・資金調達活動・・・・個人版「ふるさと和歌山応援寄付」の活用

○委員の参画を目指して

- ・委員の方にファンになってもらう。ファンとして盛り上げてもらう。ファンとして活動に参画してもらう。

○理想はワイガヤな熟議

- ・委員の方と一緒に成功体験を共有
- ・win win の関係の構築

令和7年度きのくにコミュニティ・スクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和7年10月7日（火）13:30～15:30
実施形態：オンライン

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～理想的な学校運営協議会との関わり方・委員の選び方～」

発表者：和歌山県立新宮高等学校 校長 下村 史郎 氏

「学校運営協議会委員が、当事者意識をもって、学校運営に参画することを目指して」

○コミュニティ・スクールで実現したいこと

学校運営協議会委員が

- ・「自分たちの学校」という当事者意識をもつ
- ・校長や教職員と対等な立場
- ・継続的に学校運営に参画

○学校運営委員会委員の選定

本校のコミュニティを以下の両方に設定して選定

- ・エリア（地元地域）
- ・テーマ（進路・探究）

○学校運営協議会との関わり方

- ・学校の全てを見てもらう
- ・よく分かった上で考えてもらう
- ・継続的に学校運営に参画してもらう

○学校運営協議会での特色ある取組

- ・授業参観と生徒との懇談、懇談内容を踏まえて熟議
- ・部会（学習支援部会と地域連携部会）の立ち上げ、同日に別開催して終了後全体協議
- ・定時制課程に焦点（授業参観と生徒との懇談、懇談を踏まえて協議）

○課題

委員であることが学校運営への参画には繋がっているが、

- ・個人レベルであり、学校運営委員会の組織としての参画に至っていない
- ・参画者を増やしていくコーディネーター的な役割まで至っていない

令和7年度きのくにコミュニティ・スクールの推進に係る研修会 【高等学校・特別支援学校の部】 まとめ

日 時：令和7年10月7日（火）13:30～15:30

実施形態：オンライン

テーマ：「学校運営協議会の可能性 ～理想的な学校運営協議会との関わり方・委員の選び方～」

発表者：和歌山県立きのかわ支援学校 校長 浅井 由佳 氏

「地域との共働による 学校教育の展開について～「高野口マルシェ」の取組を通して～」

○グランドデザイン

- ・保護者 地域との連携協働の推進

○コミュニティ・スクールで実現したいこと

- ・一人ひとりの「自立と社会参加」
- ・共に尊重し協働する「共生社会の実現」

○高野口マルシェ 令和3年度～

社会に開かれた教育課程の推進

- ・地域との交流を深め、本校のことを知ってもらう

学校運営協議会・高野口共育コーディネーターの支援

- ・連携体制の構築 製品開発 接客マナー等への助言

つながりの広がり

- ・地域（農家・地域企業・地域の方々）
- ・学校（紀北農芸高等学校 伊都中央高等学校 県内支援学校）
- ・育友会 同窓会
- ・福祉事務所

○学校運営協議会との関わり方

- ・win winの関係を続ける
- ・実戦的な学びを、教育課程と学校組織の中に位置づける
- ・児童生徒の思いや願いを聴く

○学校運営協議会委員（令和7年度）

○交流及び共同学習の推進（令和6年度～）

- ・地域の中で、共に尊重し合いながら、同じ目的に向かって協働する